

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成19年1月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1171700469
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム鴻巣
所在地	365-0052 埼玉県鴻巣市登戸309-1 (電話) 048-595-3700

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年10月24日

## 【情報提供票より】(平成19年10月8日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤9人, 非常勤4人, 常勤換算12.6人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	40,000円+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

### (4) 利用者の概要(10月8日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.8 歳	最低	74 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	こうのす共生病院・サン歯科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは、グループホームを全国展開している法人が運営しているため、しっかりとした本部のバックアップ体制があるとともに、管理者を中心として職員がまとまり、より質の高いケアを追及している。職員間の情報の共有を徹底するためのツールである書類は細かく記されている。職員は利用者が「その人らしさ」を自由に表現できる雰囲気を作っている。管理者は職員教育に熱心で、職員から分からないことを尋ねられたらすぐに解答できるように日頃から研鑽を積んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価結果をふまえ、AED(自動体外式除細動器)に関する勉強会を行った。施錠が常態化しないように、職員の目の行き届く時間帯は鍵を外している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホームの運営者及び管理者は自己評価の意義を理解しているが、全職員の取り組みには至っていない。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議には自治会長も出席しており、また、他の参加メンバーとの連絡調整は取れている。会議の際には積極的に家族にホームに対しての不満や不備がないか意見をうかがっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者の日々の様子やホームの活動内容を綴った家族への報告書は現在は郵送しておらず、口頭で直接伝えるようにしている。面会時にも、家族からホームに対する意見や要望を聞き、ホームの運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域包括支援センター主催の会議の中で、グループホームのケアについて地域住民に話す機会があり参加したが、地域住民との交流は十分とはいえない。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を実現するため、「だめです」等利用者に対して言葉での拘束をしないようにしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が職員にそのつど理念について説明している。職員も理念について理解しており、「ありがとうございます」と利用者に対して感謝の気持ちを忘れないケアを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域包括支援センター主催の会議の中で、グループホームのケアについて地域住民に話す機会があり参加したが、地域住民との交流は十分とはいえない。		リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、地域住民と接点をもつ努力をすることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者は、自己評価及び外部評価の意義について理解しているが、全職員への反映までには至っていない。		職員全体が自己評価及び外部評価に取り組まれることを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	自治会長も参加して、2ヶ月に1回開催し、今までに7回行っている。会議の中で出た家族や民生委員、地域包括支援センター職員からの意見は、ホームの運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者は忙しいため事前にアポイントメントを取らないと会えない状況である。また、地域包括支援センターができてからは、直接市役所に行く機会がない。		現場や利用者の課題解決のためには、市の理解や支援など必要なことが多いため、事業所から積極的に市と連携をとっていくことを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭出納帳のコピーを毎月家族に送っている。暮らしぶりや健康状態については、以前は手紙を送って知らせていたが、現在は電話で伝えている。また、面会の多い家族の場合は、その際に利用者の生活の様子を伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階エレベーター前に「苦情受付箱」を置いたり、運営推進会議の中で家族から意見を聞き取り、ホームの運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	混乱を招くので、利用者にはあえて職員の退職を知らせないようにしている。現在、職員の離職はほとんどない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が良く勉強しており、グループホーム内で研修会を開催している。職員育成のための年間計画は立てていない。		年間計画を立てて、職員一人ひとりが着実にスキルアップできる体制作りが望ましい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着型サービス事業所管理者会議やグループホーム協議会の研修会に参加し、他事業所との交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学をしていただき、利用者がホームの雰囲気に慣れ、入居することに納得してから入居いただけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のこれまでの職業等生活歴を理解した上で「その人らしさ」を尊重する対応をしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で利用者の思いや意向を意識して接し、利用者の希望に沿った支援ができるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで職員全員で介護計画について話し合い、利用者のニーズに合った介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の日々の体調変化により、随時介護計画を変更し、その内容を全職員に周知、徹底するようにしている。利用者の状態に変化がない場合も、定期的に介護計画を見直す機会を設けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「重度化した場合における医療体制指針」があり、健康管理の実施及び医療ニーズが必要となった場合に適切な対応を実施している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、家族の同意を得た上で、ホーム提携医による訪問診療を2週間に1回受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と何度も重度化した場合の対応について話し合いを行い、福祉用具の購入等によりホーム内で対応している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対するスタッフの言葉遣いや対応については、厳しく指導している。また、記録物にはナンバリングをして、得た個人情報の取り扱いを慎重に行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩・ドライブ・ピクニック・外食など利用者の希望に沿った外出を積極的に行っている。また、利用者の意思を尊重し、喫煙も可能である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キャベツを切ったり、洗い物等利用者自身でできる事をしていただきながら支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日14時30分から17時30分の時間帯で4名が入浴している。毎日の入浴や夜間の入浴を希望する利用者に対しては、できる限り利用者の希望に添えるよう努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	午前散歩、午後入浴ということ以外、ホームでの過ごし方の時間割は決めていない。例えば、トンカツ屋をしていた方にキャベツの千切りをやってもらったり、利用者一人ひとりの生活歴を生かした支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子の方が多いが、散歩は毎日行っている。スタッフが3名づつ、3コースに分かれて外出支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニット毎の施錠はしていない。玄関には利用者の安全を守るため、やむを得ず施錠をしているが、施錠をしていない時間帯もある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は定期的に行われている。しかし、実際に災害が起きた際に利用者が避難できるような体制にはなっていない。		避難方法の再考と地域の人々の協力体制について検討していくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「ケア日報」に水分摂取と配膳チェック表があり、栄養・水分摂取状況を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内は明るく、窓からは景色が見え、居心地が良い空間となっている。空調も行き届いており、快適である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や居室、共有スペースなど家庭的な雰囲気、馴染みの家具等を持ち込むこともでき、本人が居心地よく過ごせるよう配慮されている。		